市民運動は変われるか

「今、国会前にいるんだ」。昨年一二月五日夜、学生時代の友人から久しぶりに電話があった。特定秘密保護法案が参院の特別委員会で強行可決され、本会議でも可決、成立するかが大きな焦点となっていた。友人は普段、集会やデモに参加しない。だが、「今、そこにいる必要がある」と駆けつけたという。

国会周辺では、一二月五～六日、特定秘密保護法案に反対する集会やデモが続いていた。友人によると、参加者は時間を追うごとに膨れ上がっていったという。

カップルやフリーター風の若者、仕事帰りのサラリーマンやOL、競技用の自転車に乗ったグループ……。市民活動家や、労働組合・団体に動員された人々ではなかった。デモ行進すれば、道端を通る人々から「頑張れよ」との声がかかった。深夜に、「まだデモはやっていますか」と急いで地下鉄の階段を走って行った若者もいた。

友人は「知らぬ間に、一人、二人と増えていった」と振り返る。特定秘密保護法への不安が一人一人を行動に駆り立てたのであろう。

だが、特定秘密保護法は六日午後一一時二二分、自民、公明両党の「力」による採決で成立した。

◇　◇

安倍晋三首相は特定秘密保護法の成立に続いて、安倍内閣発足から一年を迎えた昨年一二月二六日に、靖国神社に参拝した。そして、集団的自衛権の行使を可能にする国家安全保障法案の国会提出をうかがう。さらに、福島第一原発事故後、停止が続く原発の再稼働も狙う。

二度目の首相就任当初は「安全運転」を心がけていたが、昨年七月の参院選で大勝し、「ねじれ」を解消した後は、その本性を現しつつある。最初の首相就任時に掲げた「戦後レジームからの脱却」だ。

安倍首相の「暴走」が目に余ると感じるが、主義、立場が違えば「英断」と映る。安倍首相の支持率は、特定秘密保護法成立後に落ちたとは言え、今もなお過半数前後を維持しているのも事実だ。昨年末のマスコミの世論調査によれば、安部首相の支持率は日本経済新聞五六％、毎日新聞四九％、共同通信五五％などだった。

デフレからの脱却を目指す「アベノミクス」は、中小企業や庶民にはその恩恵は実感できないものの、各種の経済指標は上向いており、株価も好調だ。こうした「見せかけの好況感」も後押ししているのだろう。

◇　◇

だが、特定秘密保護法をめぐる市民の力は、安倍政権に対し、大小はともかく何らかの影響を与えたのは間違いない。

同法に反対や批判が渦巻き、日本維新の会や、みんなの党の同調を得られない状況でも、「強行採決」に突っ走ったのは、日に日に増える国会前の集会、デモの参加者に恐れを抱いた結果でもある。

この市民の力を今後、つないでいくことができるか。福島第一原発事故以降、盛り上がる脱原発運動を含めて、今後の日本が進む道を左右するのではないかと感じる。市民の力が試される時だ。

ただし、札幌市中央区の道庁前で毎週金曜日に続く脱原発集会を見ていると、不安、疑問に思うこともある。参加者が徐々に減っているように見えるからだ。北海道電力泊原発の再稼働問題がヤマ場を迎えていないことや、冬期間に入ったことなども要因だろう。だが、集会に入っていけないような雰囲気がある。絶叫口調で繰り返す知事や北電への批判。カラオケ大会のような替え歌。周囲の市民から見れば、「騒音」と感じる。

安倍首相のフェイスブックやツイッターを見てみた。それぞれフォロワーは約四二万人と二五万人に達し、安倍首相の「発言」に賛辞の声が並ぶ。

こうした主義主張が異なる人たちにどう伝えるか。そして、集会を見つめる市民たちが一歩踏み出すきっかけをどうつくるか。市民運動も従来の枠から抜け出す必要がある。

〈洋〉